

地域資源を活用した効率的な酪農経営

～自身の努力に加え、人との交流を大切に～

【概要】

経営の効率化を進めつつ増頭を図るため、平成17年に(有)大森カウステーションを立ち上げ、平成22年には搾乳ロボットを利用したフリーストール牛舎を整備した。

また、平成19年には自身が中心となり、地域の仲間とともに資源循環型TMRセンターを設立した。

【対象名】

(有)大森カウステーション
代表取締役 大森敏雄



搾乳ロボット等で効率化を図った牛舎

【背景・課題】

- ・ 配合飼料価格の高止まりや従事者の高齢化の中、酪農経営を維持していくため、経営の効率化を推進する必要があった。
- ・ 酪農地域として、地域出荷乳量の維持が求められている。

【取組の内容】

- ・ 平成19年に、飼養管理の効率化を図るため、地域の酪農仲間とTMRセンター(株)ディリーサポート吹越を設立した。
- ・ 自給飼料の生産のほか、地域副産物である醤油粕、豆腐粕、リンゴジュース粕等を活用したTMR(混合飼料)の安定供給を可能にした。
- ・ 平成22年には、フリーストール牛舎と搾乳ロボットにより、経産牛を260頭まで増頭、地域内外からの雇用を創出したほか、研修生も積極的に受け入れている。
- ・ 平成25年には、近隣市町村の集落営農組織との耕畜連携により、稲WCSや稲SGSの利用拡大を図った。

<大森カウステーションにおける乳量>

区分	平成16年	平成28年	平成29年	平成30年
出荷乳量(t)	1,092	2,208	2,093	2,068
経産牛平均乳量(kg/頭・年)	9,496	9,199	8,721	8,838
県内平均乳量(kg/頭・年)	7,677	8,067	7,930	8,376

【成果(収益性アップ)】

大森カウステーションでは、経産牛を増頭し、経営の効率化に取り組みつつ、経産牛平均乳量は県内平均を上回っており、地域出荷乳量の維持・拡大に貢献している。